１　富山県軟式野球連盟のあゆみ

戦火を浴び焦土の中で敗戦にうちひしがれ、食料不足に悩む暗い世情に軟式野球で明るさを取り戻すべく、１９４６（昭和２１）年８月全日本軟式野球連盟が創立され、直ちに日体協に加盟、承認された。富山県もいち早く富山・高岡野球協会が設立され各都市にも普及した。以来、今日まで組織整備と各郡市で球場の新設及び夜間照明の設置等で施設が整備・拡充されて機能力が増し、全国大会の開催には予備球場を含め４～８会場が必要で、県内移動は短時間で可能となり選手、県外役員からも好評を得ている。

全国大会の開催は、１９５８（昭和３３）年の富山国体、１９６１（昭和３６）年は高松宮賜杯第５回１部・２部大会、昭和６１年は第８回東日本２部大会、１９９３（平成５）年には軟式野球界では最高峰の天皇賜杯第４８回大会、１９９９（平成１１）年には国体のリハーサルで高松宮賜杯第４３回１部大会、２０００（平成１２）年は、２０００年富山国体を開催し運営、成績に関しても好成果を収めた。２００５（平成１７）年には日本スポーツマスターズ大会に軟式野球競技種目が加わり、第１回軟式野球競技２００５富山大会を実施し、天候不順にも拘わらず球場関係者の協力を得て、日程通りに出来た。２０１３（平成２５）年は高松宮賜杯第５７回２部大会を高岡市中心に西地区で開催し、２０１４（平成２６）年には第３６回東日本１部大会を富山市中心に東地区で開催し盛会に終了した。

役員は、２０００年富山国体の鑑み、副会長は開催地支部長を加味して、１９９８（平成１０）年より、石澤義文、武内繁和、吉田築夫、畠　起也、河合常則、河合康守、四方正治、楠　公尚の８氏体制で万全を諮った。しかし２０００年富山国体を目前に１０月１１日谷永三夫会長(平成４年就任)が体調不良で会長辞任を表明し、後任に石澤義文副会長が会長に就任となった。１１月より、橘康太郎最高顧問、石澤義文会長、武内繁和会長代行の体制となり、２００１（平成１３）年から、石澤氏は名誉会長に、武内氏が会長にそれぞれ就任、２００２（平成１４）年からは、副会長には吉田築夫、畠　起也、河合常則、野村伊太郎の４氏、２００４（平成１６）年からの副会長は吉田築夫、畠　起也、河合常則、針山常喜の４氏の体制。河合常則副会長は参議院選挙に当選し、２００５（平成１７）年より名誉顧問、河合康守氏が復帰就任となった。２００６（平成１８年～２５）年は武内繁和会長、副会長は針山常喜、畠　起也、河合康守、鶴見端夫の４氏。２０１４（平成２６）年からは副会長の鶴見氏に代わり山岸和敏氏となる。金山敏雄理事長は、１９８８（昭和６３～平成１９）年まで、天皇賜杯、富山国体の大事業の指揮を務め、２０１２（平成１３）年富山県教育委員会より体育・スポーツ功労賞、２００６（平成１８）年にはスポーツニッポン賞を受賞した。金山氏に代わり２００８（平成２０）年より２０１４（平成２６）年まで小柴武洋が理事長となり２０１３（平成２５）年高松宮賜杯、２０１４（平成２６）年東日本大会の運営の責任者として務めた。また２０１５（平成２７）年から小柴氏に代わり宮川良輔が理事長となり現在に至る。

全国大会の主な成績は、１９６５(昭和４０)年に高松宮賜杯で三菱アセテートが初優勝となる。１９７５(昭和５０)年に三重国体で武内プレス工業が初優勝、１９８４(昭和５９)年政府管掌健康保険大会でも優勝し武内プレス工業の黄金期が始まった。１９８９(平成元年)東日本大会で北陸流通が準優勝、１９９４(平成６)年には中部日本中学校大会で魚津西部中学

校が優勝した。１９９８(平成１０)年神奈川国体で武内プレス工業が３位、１９９９(平成１１)年熊本国体で富山ドリームズが準優勝、同年中部日本都市対抗では武内プレス工業が初優勝、また高松宮賜杯で日本海ガスが準優勝となる。２０００(平成１２)年富山国体では、一般Ａは武内プレス工業が準優勝、一般Ｂは日本海ガスが５位入賞、成年は、富山ドリームズが前年の熊本国体に続き準優勝で圧倒的な野球競技の総合優勝に輝いた。また水戸市長旗東日本大会で武内プレス工業が初優勝に輝き、武内プレスと富山ドリームズが一時代を築いた。２００１(平成１３)年の宮城国体では、一般Ｂで北陸流通が優勝、成年は富山ドリームズが５位入賞し、国体で二年連続野球競技総合優勝を果たした。同年東日本大会でアライドマテリアルが準優勝、２００２(平成１４)年高知国体では武内プレス工業が準優勝、中部日本中学校大会で氷見北部中学校が優勝、２００３(平成１５)年静岡国体でも武内プレス工業が３位となる。２００４(平成１６)年の全国中学校選手権大会で桜井中学校が準優勝となる。２００５(平成１７)年の岡山国体では、一般Ａ武内プレス工業が、一般Ｂ三晶技研が共に４位入賞し、野球競技総合２位となる。２００６(平成１８)年天皇賜杯で武内プレス工業がベスト４となる。また中部日本中学校大会で魚津東部中学校が準優勝となる。２００７(平成１９)年中部日本都市対抗で武内プレス工業が優勝、スポーツマスターズで富山ドリームズが準優勝となる。２００８(平成２０)年は天皇賜杯で武内プレス工業が県勢最高位の準優勝になり、東日本大会でもＪＡなのはなが準優勝、中部日本中学校大会で鷹施中学校が優勝となる。２０１１(平成２３)年の全国中学校選手権大会で奥田中学校が準優勝となる。２０１２(平成２４)年の高松宮賜杯で富山日野自動車が準優勝となる。２０１４(平成２６)年富山県で行われた東日本大会でＪＡなのはなが見事初優勝に輝き大会に花を添えた。２０１５(平成２７)年スポーツマスターズで高岡ＤＲＥＡＭＳが初優勝、中部日本中学校大会で桜井中学校が優勝、ＮＰＢガールズトーナメントではアルペンガールズ富山が強豪チームを次々と破り見事初優勝、中部日本中学校大会で桜井中学校が優勝に輝く。２０１６(平成２８)年では阿波踊りカップで稲積少年会野球部が優勝、翌年の２０１７(平成２９)年でも戸出東部ハンターズが優勝と県勢二年連続優勝に輝く。２０１８(平成３０)年では第３回全日本少年女子大会でオール富山Ｔガールズが準優勝となる。

また(公財)全日本軟式野球連盟より１９７７（昭和５２）年　武内宗八氏　１９８１（昭和５６）年　堀為安氏　１９８５（昭和６０）年　太田武保氏　１９８９（平成元）年　島原平八郎氏　１９９３（平成５）年　谷永三夫氏　１９９６（平成８）年　金山敏雄氏　２０００（平成１２）年　林仙荘氏、２００４（平成１６）年　米澤滋氏、２００７（平成１９）年　大石昭夫氏　２０１０（平成２２）年　武内繁和氏　２０１４（平成２６）年　石澤義文氏が連盟の発展に大きな功績があったとし功労賞が贈られた。

今後は近年のスポーツの多様化、少子高齢化の時代、登録チームの減少が進む中、若年層の野球離れに歯止めを付ける必要がある。特に小学生・中学生の強化、普及に目標を置き、指導者の強化と養成を計ることが必要と考える。またシニア層・還暦層の体力増進、健康維持のための活動協力を今以上に努力していくことや、昨今女性の登録増加に伴い、女子だけで楽しめる野球環境を整える必要がある。今後県下の野球界の組織が一同に会する機会を持ち連携を取り合える一環指導体制の構築と協力体制を当連盟が中心となって継続していく必要がある。

2　各種大会での県勢の主な成績

平成１０年

第５０回福島国体以来三年ぶりに、第５３回神奈川国体で武内プレス工業が３位入賞を果たした。第６回水戸市長旗東日本大会でも４位入賞に輝く。また永年優良スポーツ団体として城星クラブが文部大臣表彰を受賞する。

平成１１年

第５４回熊本国体成年の部で富山ドリームズが、地元熊本に決勝で敗れはしたが見事準優勝に輝く。第４３回中部日本都市対抗では武内プレス工業が見事初優勝となる。また高松宮賜杯第４３回全日本大会(１部)では日本海ガスが準優勝に輝き、第２１回東日本大会(１部)は北陸流通ＪＲが第９回ＪＲ西日本学童大会では福岡町野球スポーツ少年団がそれぞれベスト８に入る。

平成１２年

２０００年とやま国体の年、一般Ａでは武内プレス工業が準優勝、一般Ｂでは日本海ガスが５位入賞、成年では富山ドリームズが準優勝と予想を上回る成績で種目別総合優勝に輝く。また武内プレス工業が第８回水戸市長旗東日本大会では初の優勝を果たし第４５回中部日本都市対抗では第４位となる。高松宮賜杯第４４回全日本大会(１部)では北陸電力富山支店がベスト８となる。また中学の部でも第１７回全日本少年北信越大会では高志野クラブが優勝、第２１回北信越中学校選手権大会で山室中学校が準優勝となり国体を含めて好成績を収めた年であった。

平成１３年

地元国体の次の年も昨年の雰囲気をそのまま持続し長年の強化事業が実を結んだ年である。宮城国体一般Ｂでは準決勝対福岡戦に先発した西川浩永選手がノーヒットノーランを達成しその勢いで北陸流通が初優勝し、成年の部では富山ドリームズが第５位になり二年連続種目別総合優勝に輝いた。また武内プレス工業が第４６回中部日本都市対抗で準優勝、第９回水戸市長旗東日本大会で第３位となる。第２３回東日本大会(1部)ではアライドマテリアルが準優勝、中学では第２２回北信越中学校選手権で氷見北部中学校が優勝、第１８回全日本少年北信越大会で高志野クラブが準優勝となり昨年に続き好成績を挙げた年であった。

平成１４年

第５７回高知国体では武内プレス工業が強豪佐川急便中京に惜しくも決勝で敗れはしたが見事準優勝に輝く。また第３２回中部日本選抜大会で氷見北部中学校が優勝となる。

平成１５年

第５８回静岡国体一般Ａで武内プレス工業が第３位となるがその他の大会では一般、中学、学童のチームがなかなか勝てない年であった。

平成１６年

第５９回天皇杯で武内プレス工業が三回戦で優勝した大阪市信用金庫に延長１１回で惜しくも敗れる。第２６回全国中学校選手権大会で桜井中学校が見事準優勝に輝く。

平成１７年

第６０回岡山国体一般Ａでは武内プレス工業が第４位、一般Ｂでは三晶技研が同じく第４位となり久しぶりに種目別総合第２位となる。また第２７回東日本大会(1部)で居酒屋魚人がベスト４、学童の部では第１０回高野山旗西日本大会で田家イーグルスが第３位となり一般から学童まで好成績を挙げた年である。日本スポーツマスターズ2005が当県であり軟式野球競技が今回始めての開催となり地元代表として出場した富山マスターズが２回戦で敗退した。

平成１８年

第６１回天皇賜杯では武内プレス工業が準決勝でタンガロイ(福島)に惜しくも敗れるが県勢初のベスト４になる。また第２８回東日本大会(１部)では、なのはな農協がベスト４まで進む。中学の部では第３６回中部日本大会で魚津東部中学校が見事準優勝に輝く。

平成１９年

第６２回国体北信越大会は延長２２回の激戦を制し北陸流通が本大会出場を勝ちとり秋田国体では７位入賞を成し遂げる。第５２回中部日本都市対抗では武内プレス工業が強豪チームを次々と破り二度目の栄冠を勝ち取る。日本スポーツマスターズ 2007 では富山ドリームズが決勝戦で２対３と惜しくも敗れ準優勝となるが見事な戦いぶりであった。また学童、中学では第１２回高野山旗西日本大会で井波野球スポーツ少年団が第３位、第３２回中部日本大会で桜井中学校がベスト４となり学童から成年まで全ての年齢層で好成績となっ

た年であった。

平成２０年

第６３回天皇賜杯で武内プレス工業が連覇を狙う佐藤薬品に惜しくも０対１で敗れるも県勢最高位の準優勝に輝く。また第３０回東日本大会(１部)では、ＪＡなのはなが準優勝となり、Ａ、Ｂ両クラスで好成績となる。また第３８回中部日本少年大会で鷹施中学校が初優勝となり、第４回松井秀喜旗では神明パイレーツが準優勝と昨年に続き成年から学童まで全ての年齢層で好成績となった年であった。

平成２１年

ここ数年好成績が続く中、本年はなかなか勝てない年であった。各全国大会でほとんどのチームが１,２回戦で敗れるが、北信越の代表権は最低限獲得したことは好材料であった。第３９回中部日本少年大会で岩瀬中学校がベスト４になるのが最高であった。

平成２２年

第５４回高松宮賜杯(１部)で北陸電力富山がベスト８となり、第６５回天皇賜杯で武内プレス工業が３回戦で敗れる。ただ北信越国体で本国体の代表権を逃したのは残念であった。第４０回中部日本少年大会で射北中学校がベスト４となるが、本年もなかなか勝てない年であった。

平成２３年

第３３回東日本(１部)で北陸電力富山がベスト８になるが、高松宮１、２部がブロック予選で代表権を獲得できなかった。奥田中学校が第６４回全国中学選手権の決勝で１対２と敗れるが見事準優勝に輝く。また第１回水戸市長旗少年大会でもベスト８になる。第３回文部科学大臣杯少年春季大会では氷見北部中学校が３年連続全国大会の切符を獲得するなど中学年齢層の活躍が目立った年であった。

平成２４年

第５６回高松宮賜杯(２部)で富山日野自動車が決勝で２対３で敗れ準優勝となるが見事な戦いぶりであった。日本スポーツマスターズ 2012 では高岡ＤＲＥＡＭＳがベスト８となったが他のクラスでは苦戦の年であった。

平成２５年

第３５回東日本(１部)でＪＡなのはなが、同２部では北陸貴功會がそれぞれベスト８となる。武内プレス工業は第６８回天皇賜杯でベスト８、東京国体で８位となる。第５７回高松宮賜杯(２部)が富山県で行われ当県代表の４チームは惜しくも初戦で敗れた。第３３回高円宮賜杯では新庄スポーツ少年団がベスト８となり第２０回西日本学童大会で大谷スポーツ少年団がベスト４となる。また第９回松井秀喜旗学童大会では倉垣ライオンズが県勢初の優勝に輝く。

平成２６年

富山県で開催した第３６回東日本(部)ではＪＡなのはなが決勝戦でサヨナラで勝ち見事初優勝に輝き大会の盛会に花を添えた。また同２部ではＹＭ秋吉が、第２２回水戸市長旗東日本では武内プレス工業がベスト４となる。第１７回関東北信越少年新人大会で、桜井中学校が見事初優勝に、文部科学大臣杯北信越大会で氷見北部中学校が県勢で６年連続全国大会の切符を勝ち取った。

平成２７年

日本スポーツマスターズで高岡ＤＲＥＡＭＳが強豪チームを次々と破り県勢初の優勝に輝く。又ＮＰＢガールズトーナメントではアルペンガールズ富山が２回目の出場で決勝に進み強豪愛知県代表

を逆転で破り見事優勝に輝く。第５９回高松宮賜杯（２部）では富山ＧＯＬＤＬＩＯＮＳがベスト４になる。中学の部では全国中学校選手権で氷見北部中学校が３位になり第４５回中部日本大会で桜井中学校が優勝に輝きすべての年齢層で活躍が目立った年であった。

平成２８年

徳島県で開催された阿波踊りカップで稲積少年会野球部が決勝のコールドを含めすべての試合を大差で勝ち見事初優勝に輝く。第３６回高円宮賜杯で新庄ジャイアンツが３回戦まで進出したが、他のクラスの年齢層ではなかなか勝てない年であった。

平成２９年

第３９回東日本(1 部)で日医工がベスト４になり第６１回高松宮賜杯(2 部)でリードケミカルがベスト８になる。第６２回中部日本都市対抗で武内プレスがベスト４となる。阿波踊りカップで昨年の稲積につづき戸出東部ハンターズが県勢として連続優勝に輝く。

平成３０年

第３回全日本中学女子でオール富山Ｔガールズが決勝戦で山梨代表に惜しくも敗れはしたものの見事準優勝に輝く。第４８回中部日本中学で和合中学校が準優勝になり、文部科学大臣杯全日本少年春季で氷見北部中学校が第３位になり中学年齢層での活躍が目立った。しかし一般、学童のクラスではなかなか勝てない年であった。